

森林・林業、木材産業等関係者ヒアリング結果の概要

参考資料

項目	課題	内容	詳細	
森づくり	再造林(植林)	皆伐はその後の施業(植林等)にコストがかかるので実施していない	昔は山間部に多く人がいたので、皆伐後に植林する場合も人材の確保ができたが、今はそのような方法ができないので皆伐は実施していない。	
		植林した森が伐期を迎えたころ、今と同じような林業業界であるか心配	時代の変化を考えると、今、植林に力を入れても伐期になって現在のような木材需要があるか分からない。また、管理にかかるコストについても行政に支援を検討してもらいたい。	
		伐採後の植林作業にかかるコストが大きい	植林後も多くの保育作業が長期に渡って必要になり、多くのコストが必要になる。材価低迷等により出材して得られる収入が多く見込めないため採算が合わない。	
		有害鳥獣の食害により新植した苗木がダメになる	シカ、野ウサギなどによる食害	
	境界が不明確	地籍調査が進んでいない	境界が確定していないので施業ができない場所がある。	境界が確定していないので施業ができない場所がある。
			民有林の仕事もしたいが、境界が明確になっていないので事業化できないでいる。	民有林の仕事もしたいが、境界が明確になっていないので事業化できないでいる。
			施業地の確保に支障がある。また、森林情報を可能な範囲でオープンにしていくことも必要ではないか。	施業地の確保に支障がある。また、森林情報を可能な範囲でオープンにしていくことも必要ではないか。
			自社林なので森林情報はあまり必要にしていない。ただ、森林境界については課題に感じている。	自社林なので森林情報はあまり必要にしていない。ただ、森林境界については課題に感じている。
	スマート林業	マニュアル作成や研修会をもっと開催してほしい	専門用語が多くて分かりにくい。事業にどのように活用できるのかも検討しにくい。分からない時にすぐ聞ける人材を市か県に置いてほしい。	
	高性能林業機械	林業機械の修繕に対する補助が必要	他市町村では林業機械の修繕も補助対象にしているところがある。安芸市でも検討してもらいたい。	他市町村では林業機械の修繕も補助対象にしているところがある。安芸市でも検討してもらいたい。
			森林施業の効率化、事業規模拡大のためには高性能林業機械の活用が欠かせない。導入にあたっての補助制度などの支援が必要。	森林施業の効率化、事業規模拡大のためには高性能林業機械の活用が欠かせない。導入にあたっての補助制度などの支援が必要。
	自伐型林業	森林所有者との信頼関係の構築が重要	森林所有者は外部の人間に山を任せることに抵抗があることがあり、仲介に行政が入ることが重要。	
		施業地の確保	30ha程度の施業地を確保できれば持続的に林業を実施していける。約5haを1年でまわしている。	
		採算のあわない森林での施業	林業事業者が採算をとれない場所を実施できることもあるため、そのような施業地の分担(ゾーニング)も重要。	
	里山の森林整備	中山間地域にある集落周辺の里山は森林整備が難しい	土地が細かく分かれていて面的にまとめることが難しい。また、人家にも近いため大型機械等を用いた施業は困難。	
	林道	林道の改良	現状の県道についても改良(拡幅)は必要。また、延長も伸ばしていくことが望ましい。	
		10tトラックが通れないと採算があわない	十分な運搬能力のある車両が通行できる規格に道路を改修してほしい。	
		維持管理をしてほしい	補修が必要な路線もまだある。維持修繕を定期的に行う必要がある。	
	搬出コスト	県東部はインフラ(道路)整備が遅れている	搬出にかかる経費が高つく。燃料代の高騰も影響がある。	
	大径材	製材設備を備えた事業者が少ない	大径材が増えてきている。一方、市内で製材できる場所が少なく、構造物としての需要も減ってきているのではないか。	
	広葉樹の活用	広葉樹の活用	需要と価格が見合えば施業していくが、現状では利用する予定はない。	
		クヌギ等も生育している。更新を図る必要がある	現状では更新の作業を実施する計画はない。	
		広葉樹林を施業することはない		
		需要と価格が見合えば施業したいが…	現状では施業する計画はない。	
用途や販路がなければ活用は進まないのではないか				
ゾーニング	地形に応じたゾーニングが必要	ゾーニングする条件の整理をしなければ現場で施業する事業者負担がかかる。		
	急峻地のスギ・ヒノキ	急峻地のスギ・ヒノキは、森林保全を目的として、自伐型で混交林へと転換していく方針でよいのではないか。		
	自伐型向き、事業者向きの区分	簡単に分けることは難しいと思われるが、最初のとっかかりとして全域を区分することは良いと思われる。その際に法規制や傾斜等、様々な条件を考慮すると良い。		
	人家に近い場所	小規模林家、特殊伐採技術を持つ集団などへ依頼することになるのではないか。		
森林環境譲与税の活用	森林経営管理制度に基づく森林施業も取り組みたい	採算性が確保できるのであれば実施していくことを検討したい。 条件によっては実施しても良いと考えている。安芸市は小面積の山林が多い。面的なまとまりは必要。		
	税金を使うのだから、しっかりしたルールが必要			
担い手対策	林業大学の卒業生が就職してくれるが定着しないこともある	林業大学で学んだことと、実際の現場とで乖離があるのだろうか。		
	林業大学の定員を増やしてほしい	資格を持った人材を雇用できるようになって助かっている。もっと定員を増やしてほしい。		
	若い人材はいつでも欲しい状況	人材の確保ができれば事業規模を拡大していくことも検討したい。 人材が不足している。若い人も入ってきてくれない。		
情報発信	林業のイメージを良くしたい	きつい、汚い、危険といったイメージが強く、担い手の確保にも悪影響がある。子どもたちへの教育に加え、大人にも林業の素晴らしさや大切さを知ってもらう取り組みが必要だ。		
ビジョンに求めること	若い人が林業業界に入ってきてくれるようなビジョンにしたい	若い人に関心を持ってもらうことが重要。また、川上の仕事は川下の需要に支えられているので、川下の産業振興も大切。それを盛り上げていけるビジョンにしたい。		

項目	課題	内容	詳細
木づかい	安芸市産材の流通	「安芸市産材」にどこまでこだわるか	安芸市産材のみで使うこともできるが、時間と手間がかかる。県東部地域や安芸流域等、少し広く考えたほうがよい。
			安芸市産材をどのエリアと規定するかを検討する必要がある。数量に課題があるのなら、高知県東部、安芸森林管理署管内、といったエリアに拡大してもいいのではないか。
		安芸市産材の活用に必要な仕組みを作ってほしい	安芸市産材利用に対する補助も必要である。
		市産材の利用は公共建築で利用することが望ましい	民間建築で安芸市産材を利用する場合コストが高くなる。そのため、公共需要に絞って取り組むことが良い。
		産地証明の方法	木材が山から出ていくときに、どのように産地証明するか。仕組みの検討が必要。産出エリアを拡大すれば共販所でデータ管理することは可能ではないか。
		川上、川中、川下の全体を支援することが必要	各事業者を支援し、力をつけてもらうことで、チームとして安芸市産材の商いができるようになる。
			木材の産出場所指定の範囲は拡大して、製材を安芸市内業者に限るとすれば「安芸市産材」と規定してもいいのではないか。
		ストックしておくスペースと運営管理する仕組みがあれば実現できるのではないか	求められる数量の木材をすべて安芸市産材で賄うためにはストックしておく必要がある。また、運営管理の仕組みとして、例えば、林業事業者が丸太を搬入してきたら市が買い取り、品質を保てる状態に加工（一次加工）して保管、発注があった際にこれを二次加工して製品化するという方法が考えられる。
			安芸市産材流通の課題は、建築に必要な木材の量を必要な時に調達できないことにある。一か所にストックしておくことができれば需要に耐えられるのではないか。
			木材利用の補助制度
		安芸市内からの木材だけでは賄えない	安芸市の森からの木だけでは必要量を賄えない。また、扱っている製材品に合う木材が安芸市の森から伐り出せないこともある。
	公共建築物での木材利用促進	公共建築物等の大型建築の場合は材工分離発注	大型建築物の場合、必要な木材量を工期内に調達することが難しいケースがある。木材の調達と工事の発注を分けて進める方法も必要ではないか。
		多くの市民が目にする公共建築物の木質化にまず取り組むべきではないか	市民の税金を使って行う取り組みなので、市民が一番目にする人が多い公共建築物に木を使うことが大事なのではないか。市民へのアピールにもなると思う。
		小規模施設への木材利用	安芸市内の大きな工事ではなく、トイレ等の小さな工事でも木材利用を促進していく方針を作っていたらありがたい。
	建築様式の変化	木材需要が変化し、今はフローリングや壁板用の製材が増えている	昔のような日本建築は減ってきている。木材利用量も少なくなっている。
	住宅建築	人口減少	人口減少に伴い新築住宅着工数は減少。
			住宅着工数の減少による木材需要の減少、プレハブメーカーの方が強い。
		工期	住宅着工までの工期が短いため、時間をかけて木材を使うといった風潮はなくなりつつある。
	森林環境譲与税の活用	現在の活用状況は川中、川下への事業化が少ない	川中、川下の取り組みにも活用枠を広げ、全体としてバランスの取れた活用の方向性を検討する必要があるのではないか。
	空き家対策と木材利用の促進	空き家のリノベーション	空き家が多いことが問題。空き家をリノベーションし、移住や定住の促進に繋げる取組も行っても良い。
			材を大量には使用しないが、内装等に使用することはできる。
	木材のカスケード利用	建築端材等の有効活用	今後有効に活用していきたいと考えているが、コストがかかるため現状では実施できていない。
	特用林産業	土佐備長炭	
			ウバメガシを用いた備長炭は高く売れるが、カシ類で作った備長炭は昔に比べて価格が大きく下がっている。
			材の調達は自身で山に入り選木から伐採、搬出まで実施。外部委託は採算性が合わないため難しい。
広葉樹の活用	製材は専門業者に委ねる必要あり	スペース管理が難しいため専門業者に任せる必要がある。乾燥に10年程度を要するため。また、製材するためのノコギリもスギ・ヒノキとは異なる。	
担い手対策	鋸の目立てをしてくれる職人	安芸市にはいないため高知市から呼んでいる。県内で見ても人は少ないので、県単位での対策が必要である。	
	製材業でも担い手対策は重要	住宅手当などの補助があれば大きな支援になるのではないか。	
	製材業の職業としての認知度を高める必要がある	製材は職人的技術の側面があるが一定の需要は常にある。後継者育成は時間がかかるが、この職業をもっと若い人に知ってもらうことが重要だと思う。	
ビジョンに求めること	市内の業者に仕事が行くような仕組みづくり		
まちづくり	空き家対策	キャンプ場の整備	景色や立地条件の良い土地や空き家を別荘として整備し、県外からの移住者やレジャー参加者を呼び込むこと等をしてほしい。
	森林環境の活用	山と人を繋ぐこと	山を材の調達だけの場としないようにするため、山と人を繋ぐことを意識し、自然との共生や安芸市の魅力づくりが必要。
			イベントスペース等を用意してもらいたい。また、東山森林公園をもっと活用できるよう取り組んでほしい。
	情報発信	環境教育・普及啓発	森林整備を促進しつつ、山の魅力を伝えることや環境教育等の普及啓発にも取り組んでほしい。
	木育	小学生の体験ツアー企画	山での環境学習、製材・木工玩具の製作現場などを見学する小学生の体験ツアー企画をしてはどうか。
	安芸市ビジョンに望むこと	自伐型林業の推進	移住・定住も視野に入れて県内外からも人材を取り入れる試みが必要ではないか。
水産業への影響	災害等により流木や土砂が海へ流れると水産業に悪影響がある	森は川によって海とつながっている。安芸市が全国に誇るシラス漁も森づくりの影響を大きく受けると思う。アユ漁も盛んなので河川の水質保全にも適切な森林管理が欠かせない。	